



聖徒のための情報誌

今月号の内容

第31回沙弥校・第17回僧風林
開催・聖徒さんご紹介(1面)
沙弥校・僧風林特集(2面)
身延大会に行ってきました
日蓮大聖人の歩まれた道
九州布教区研修会開催(3面)
よろこび法話(4面)

平成27年(2015年)9月1日(火)
9月号

発行所
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町3-25-11
九段中央ビル702
日蓮宗霊断師会九段事務所
電話 03-6272-9340
FAX 03-6272-9341

日蓮宗霊断師会

会長 末吉 観道
編集人 松本 恵昌
購読料 1部 100円(税別)
毎月1回1日発行
日蓮宗霊断師会ホームページ
http://www.yorokobi-reidanshikai.jp
よろこび投稿メール
yorokobi@yorokobi-reidanshikai.jp

お題目の道を
伝える師弟を育成
第三十一回沙弥校
第十七回僧風林

本年もまた七月二十六日より三十日の四泊五日の日程で、新聞終身名誉会長のご自坊である東京都感通寺様において、第三十一回沙弥校・第十七回僧風林が開催されました。

沙弥校生五名、僧風林生一名(内女子二名)の計六名という、小学三年生から高校三年生と年齢差があるなか、自分のことだけではなく人を思いやりながら、本当に充実した四泊五日になりました。

当会講師スタッフの特徴は、小僧の時に当会の沙弥校・僧風林を経験した者です。自分が沙弥校・僧風林で経験したことを活かしながら、子供たちのことを考え時に厳しく、時には優しく接しています。そして子供たちは一生懸命歯をくいしばりながら応えてくれます。時には叱られて涙を流す子供もいます。しかし、次の時間にはビックリする程の大きな声を出してお経を読むのです。暑さと足の痛さと喉の痛さと闘いながら、師匠・聖徒の皆さんの期待に応えるように読経する子供たちの姿は実に尊いものがあります。

声明の練習の時もわかりやすく子供たちは簡単に音程をつかんで上手に唱えるようになります。何時もながら子供たちには底知れぬ能力があるものだと思えて認識させられました。

積尊伝・祖伝を担当する先生方もそれぞれに工夫をこらした講義をされます。自作の紙芝居を使っている楽しい講義は子供たちも大喜びでした。忙しい中、何ヶ月も前から準備をし、常に子供たちの笑顔を思い浮かべながら作ったそうです。

三日目には、写仏の時間がありました。写仏ですから真剣に書写するのですが、子供たちにとってこれはまさに癒しの時間です。それは、恐い先生ではなく二人の女性の先生が優しく指導してくれるからではないでしょうか。

この二人の先生が食事を担当して下さり、五日間の献立を子供たちの体調や栄養のことをよく考えて立てて下さり、嫌いな食べ物も上手に調理して食事に並べてくれました。そのおかげで、子供たちは食事を楽しみ、五日間元気に過ごすことが出来ました。

恒例の東京デイズニerlandへのエクスカーションは本当に子供たちが楽しんでくれました。子供たちだけでなく、先生との距離も縮まり、とても有意義な一時を過ごすことができました。私たちスタッフも人の親です。

心を鬼にして指導しなければならぬ辛い顔の子供たちを見た時は私たちも同じ心になります。辛いですが、しかし、仲間と笑顔で遊んでいる時や修行の後のデイズニerland、特に修了式が終わった後にお父さんやお母さんに見せる真夏の太陽のようなキラキラ光り輝いている子供たちの笑顔を見ていると、仏様の顔に見えてきます。この笑顔があるからこそ私たちがスタッフも頑張ることが出来るのです。

毎年、このエクスカーションにマイクロバスを出して自ら運転してデイズニerlandへ連れて行ってくださる東京の田辺壽昌上人に心より感謝いたしております。

開閉校式には、新聞名誉会長様がご導師をお務め下さいました。終身名誉会長様が常におっしゃっておられる「法器養成」はすぐには芽を出しませんが、スタッフ一同、建副会長様より「お経を読むなら堀之内」と言われていた時代の読経法、一々文々で独特な調子で読む練習法を講師に伝授していただき、三十年以上の「法器養成」の思いを引き継ぎ、当時の子供たちがこの沙弥校・僧風林のスタッフとして支え始めました。是非、聖徒の皆さんのお寺の子供を私たちに預けてください。必ずや、お題目の道を伝える立派な師弟に育てていきます。お願い致します。

最後に、この五日間、物心両面に渡って多大なるご支援を頂戴いたしました終身名誉会長様はじめ感通寺の皆様、参加してくれた七名の子供たち、ご理解ご協力ご支援を賜りました保護者の皆様、助成金・差し入れを頂戴いたしました皆様、法務多忙の中準備を含め六日間お勤め下さいました講師スタッフの皆様にご厚く御礼を申し上げます。



校長 新聞 信應

全国の聖徒さん紹介



埼玉県龍音寺聖徒団
鈴木 利幸さん

昭和九年六月二十八日、中国青島生まれの鈴木さんは、長年、大手メーカー工場のライン製作工程を決める仕事をしてこられました。夫婦二人で旅行に行くのが趣味でしたが、今から約十年前に奥様が入院し、奥さまの回復を願って来寺して以来、毎月三回以上欠かさず、茨城県日立市から朝一時半に起床準備をし、始発電車を乗り継ぎ、七時過ぎには来寺し、皆さんと大きな声を出して読経・唱題しています。

妻の靖子さんも医師も驚くほどに回復し、今は一時帰宅ができるように祈願をしています。また、鈴木さん自身も白内障が悪化し、手術が無理といわれ、あきらめかけていましたが、鈴木さんの強い信仰の功德と俱生神月守の御守護で、よい病院、よい先生との縁が生まれ、無事に手術も成功し、視界が明るくなり、笑顔が増え、若返ったと皆さんから言われています。眼が治り、大好きな旅行に行き、写真・パンフレットをみせてもらいながら話を聴くのが、聖徒団の皆さんの楽しみです。

埼玉県龍音寺聖徒団
齋藤 龍健団長



お寺にお参りに来た、アイドル達との写真

津軽宇田山 間法寺
毎朝 5時半より「朝勤祈禱会」
毎月 最終日曜日「盛運祈願会」
9月21日 午前11時より
「鬼子母神大祭」
毎月 第2土曜日
午後3時より「唱題修行」
〒030-1403
青森県津軽郡外ヶ浜町平館元宇田52-2
TEL 0174-25-2712
住 職 工藤 堯幸・副住職 工藤 堯慎

妙正寺聖徒団
相川 和也
9月20日(日)午前11時より
しゅうきょうりょうごんとうぼくきょう たつこうしゅうなんな
秋季彼岸会塔婆供養。龍口法難会。
毎月1日午前10時 盛運祈願会
北海道妙正寺聖徒団
〒071-1423
北海道上川郡東川町東町2丁目6-3
TEL 0166(82)2714
FAX 0166(82)2914

美濃乃國
常唱寺 聖徒団
いかにされるよろこび
〒501-3734
岐阜県美濃市千畝町2738-2
TEL/FAX 0575(33)1430

本山 佐野 妙頭寺
天目聖人御報恩
平成屋根等大改修
ご寄付募集中!
●郵便振替
口座番号 00180-6-267327
口座名義 妙頭寺建設委員会
〒327-0843 栃木県佐野市堀米町264
TEL 0283-22-1524
FAX 0283-22-4194
http://www.sano-myoukenji.jp

日蓮宗霊断師会終身名誉会長
感通寺聖徒団団長
新聞 智雄
〒162-0044
東京都新宿区喜久井町39
TEL 03-3209-8782
FAX 03-3208-7966

伝統の三十一回沙弥校・第十七回僧風林開催

小坊主さんの夏の修行

七月二十六日から三十日、当会伝統の「第三十一回沙弥校・第十七回僧風林」が東京新宿の感通寺(新間智雄終身名誉会長・御寺坊)を会場に四泊五日の日程で開催された。日常生活に法華経・お題目の信仰を取り入れ、少年少女の法器養成教育・次世代を担う人材育成を図った。

期間中、指導に当たった先生たちは、時には厳しく、優しく、「お経練習・法式声明・行儀作法」の指導を行い、女性の先生からの「写仏」の指導など、たくさんの方の修行を受け、最終日の修了奉告式に臨んだ。次に感想文を紹介する。

沙弥校

茨城県 照谷寺

村上 心梧

小学三年生



ぼくは、沙弥校は初めてで、読経をはじめてやった時、そんなに大きな声で読むことが出来ませんでした。だけどだんだん慣れて、唱えられるようになりました。

つぎにラジオたいそうをしました。ラジオたいそうは近くの学校でした。

学校には六〇人くらいの人たちがきていておどろきました。あと二十八日に五十分の読経をしてがんばってやりおりました。

さいごに正座を動かさないでいたので、エムヴィピーにえらばれてとてもうれしかったです。

沙弥校はとても楽しかったです。

愛媛県 法華寺

讃岐 陽菜

小学四年生



私は、今年で二回目の沙弥校でした。

まだ知らないことは多くてちよつと大変でした。一番初めの授業は新聞校長先生がしてくださいました。やったのは仏さまの願いという題でした。

そのあと、初めての読経をしました。二日目は大聖人伝を岡田先生が、釈尊伝を戸田先生が教えてくださいました。



山主上人導師のもと開校式



大きな声で読経練習



声明師による声明の講義



夕方は近くの銭湯へ

僕は、今年最後の沙弥校でした。また初めて班長になりました。それなので一人倍責任感と緊張感のある沙弥校になりました。

やはり一番大変だったのは、読経の授業です。新聞校長先生や新聞正興先生などに厳しくしっかりと教えて頂きました。

愛媛県 法華寺
讃岐 英尊
中学三年生



みんなであちからを合わせる大切さを学びました

三日目には二時間目から奉告式練習をしました。私は、太鼓の役でした。教えてくれたのが新聞校長先生でした。教えるのがとても上手だったので、とてもわかりやすく、そのおかげで練習が早く終わりました。

そのあとの読経は二時間あって、二回目の読経は五〇分間ずっと正座で如来寿量品第十六をとぎらずに、大きい声で唱えました。大きい声をだしただけではなく、大きな声で唱えましたが、とても頑張ったなと思いました。これからも、お経を唱えるのを頑張りたいです。

青森県 蓮華寺

角田 経一

小学六年生



僕は、今年で三回目の沙弥校でした。僕が一番きつかった修行は読経です。

なぜかというところ、口を大きく開かなければいけないし、お腹の中から声を出さなければいけなかったからです。でも、その中でも一番きつかったのは正座です。あまりのきつさに自然と涙があふれてきました。

おもしろかったことは、岡田先生による聖人伝



沙弥校会場

愛媛県 法華寺

讃岐 謹加

中学一年生



と戸田先生の釈尊伝でした。聖人伝では、日蓮聖人の一生を紙芝居にしてわかりやすく説明して頂き、ところどころに人気のキャラクターが描いてありました。最後の修了式では、今まで学んだことを活かして精一杯望みたいです。

また、聖人伝や釈尊伝を忘れずにいたいです。僕たちに教えてくださった先生方、ありがとうございます。

僧風林

北海道 妙正寺

相川 晃和

高校三年生



私は今年で二回目の僧風林に参加しました。班長になり責任も重く、他の人に気遣う気持ちを持つのはとても大変でした。

ですが日に日に出来るようになり、班をまとめて協力出来るようになりました。

修行の中では叱られることが多く、読経練習で「声が出ていない」と注意されることがありましたが、喉がガラガラになりながら一生懸命練習に取り組みました。

また教養では釈尊伝や日蓮大聖人伝、声明の授業を受けました。教養は自分のためにもなることをたくさん学び、知識を増やすことが出来ました。とても良い学びの場だったと思います。

この僧風林で自分の足りないところを知ることが出来たので、そこを改善できるようにこれから生活していきたいと強く思いました。

そして、この経験を残りの高校生活や来年の大学受験に役立てていきます。

この僧風林に参加させてくれた家族にも心から感謝の気持ちでいっぱいです。



初めて写仏をしました



釈尊伝・大聖人伝を学ぶ



みんなでラジオ体操



楽しいディズニーランド

初めての沙弥校先生

教監部主事 戸田 教耀



今回初めて先生として沙弥校に参加させて頂きました。私は小学校四年生の時に初めて沙弥校に参加し、僧風林までの計九回参加致しました。

毎年参加していた沙弥校に再び参加できる事はとても懐かしく、お坊さんとしての基礎を覚えて頂いた所で、自分の僧侶としての原点に帰ってきたようで嬉しく思いました。

子供の時に教えて頂いた先生と同じ立場に立ち、自分はどういう風に教えて頂いたかを思い出しつつ、新鮮な気持ちで沙弥校生と一緒に勉強させて頂きました。

私にとって沙弥校は、日常の生活だけではなかなか学ぶことのできない将来お坊さんになる為の卵として読経・所作の基礎を教えて頂ける場所、自分が住んでいるお寺とはどんな役割をする場所、両親のしている僧侶というのはどのような存在であるのかを学べる場所でした。そして、学校の友達とは違ったお坊さんになりたいという同じ志を持った全国の友達と出会える場所でした。

沙弥校は普段の生活とは全く違う環境で、時には厳しく、楽しく、時々悔しい思いをしながらも仲間と協力して物事を成功させていく、相手の立場になって他人を思いやる心を育むといった、人としてのどうあるべきかを学べる大切な場所です。長い夏休みの中で沙弥校の五日間は日蓮宗の将来を担う子どもを育てる場です。来年、一人でも多くの方に参加して頂けることを教監部一同、心からお待ちしております。

沙弥校時代の戸田先生



おいしい食事をありがとうございました

第五十回記念 全国聖徒団結集 身延大会に参加して



富山県利生寺聖徒団
藤岡 曙さん

元気で参詣できることに感謝の念を胸に車を出る。
利生寺で富山の方々とバスに乗り込み、途中立山、魚津、上越高田インターで参加者乗せ、良い天候にも恵まれ、屋敷に身延山に無事到着。
例年のごとく記念写真を撮り、直ぐに奥之院思親閣に上がった。

利生寺にお世話になり始めた頃、お上人さんから「生まれて数年で亡くなった長姉の供養を私がしなければならぬ」と告げられたが、その当時母も存命しており、五人兄妹の三番目の自分が何故とこの事に疑問を感じていたが、昨今お上人が言われたようになってきたと感じつつ、長姉と早世した妻の弟と私達夫婦の両親の回向を思親閣でお願いして下山。

その後、宝物館を見学、鎌倉室町時代にかけて現在までも名を残しておられる名僧さんがたくさんおられる中で、お一人だけ自分の名前を宗派の冠にしておられる日蓮大聖人様の強さを改めて感じ、御草庵跡と御廟所へ。時は八百年を刻みましたが、「いづくにても死に候とも、墓をば身延の沢にせさせ候べく候」との御遺言を遺された空間を共にしたように勝手に感じつつ今夜の宿坊へ。

窪の坊で夕食、唱題修行に参加、今年の趣向は大変大きな日蓮大聖人様の張子、それも夜間ゆえの工夫で、体内に光を内蔵させ色彩豊かに輝かせ、目を見晴らししてくれた。間近にみる花火に感動し一日目が終了。
二日目は早朝五時半からのお勤めに参加ではじまり、大会会長の任を任せられた利生寺観道上人の下、参加人員六百八十余名に、一日給仕の委託、身延山法主親下より御経頂戴等々の後、記念法話があり、ユーモアに富んだ語り口について引き込まれ、時には大笑い、お嫁さんが姑さんの背中を流すところでは涙し、有意義な大会を終え来年の参詣を願って総門を後にした。
途中、勘違いで同行のご婦人から手荷物のお話を言われた。お世話に励みなさいとの教えなのでしょう。



富山県利生寺聖徒団
幾島 昭子さん

当日は天候にも恵まれ、思親閣から見た富士山と祖廟参拝の折の新緑の美しさに感動致しました。
夕方、通路の上り階段と、日蓮大聖人様実物大像に灯明がともされ、三門前で大勢の方々の唱題修行は信徒として身の引き締まる思いが致しました。
間近で見る万燈奉納、連続花火には我を忘れて見とれました。
翌日は四時起きで久遠寺まで徒歩、朝のお勤めに参加しました。

七時三十分より多数の参加の中、大本堂行事が開始され、有難い法話が続き、中、住職の体験談で近所の檀家の主人が住職に「交通安全のお経をお願い」と言っていてバイクで「俱生神月守」も身に着けて出かけた折、側道にバイク諸人転倒し怪我も負って身動きも出来ず、人の通りも殆ど無い状況の中、息子の嫁が散歩して今まで通ったことの無い道で発見、大事に至らなかつた由、又事前にお経を頼まれた住職も勤行の際強く意識して唱題されたとの事。この事があったからより一層信仰に熱心になられたと講話された。

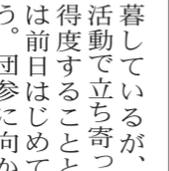
この度は通常は寺院の方しか入れない大聖人像の前まで進ませて頂き、散華を奉納することが出来ました。
この大会は日蓮大聖人様に弘通した一年間のご報告と、私達が後継者としての自覚と新たな誓いを立てる場でもありました。
有意義な大会に参加させて頂き、末吉会長を始め関係者各位に感謝申し上げます。

身延山団参に向かう我々は五月二十三日の朝、本堂の本堂で得度式に立ち会った。衣を着た青年が出家しようとする緊張の面持ちでいた。守温団長が導師となり、悠温上人が介添えをした。青年はとても緊張していたように見えたが、式は滞りなく終了した。こうして沙弥となった青年シロ・アヤラさんも加わって我々は身延山団参に出発した。
シロ・アヤラさんはアルゼンチン生まれ、台湾で現地の女性と結婚して



愛知県本覚寺聖徒団
古川 博昭さん

暮しているが、悠温上人が台湾に布教活動で立ち寄ったときに出会い、出家・得度することとなったのだ。シロさんは前日はじめて日本の土を踏んだという。団参に向かうメンバーは、回を重ねた方からわたしの様な初めての者まで、平均年齢六十歳ぐらいの二十名弱の集り。マイク口バスを仕立て好天の下、一路身延へ向かった。
身延山の宿坊に到着後、ご廟所と妙石坊へ参り、そして夕食後三門前行事に参列した。
唱題修行の式もさることながら、それに花を添えた万燈の練り歩き、そして打ち上げ花火。頭上真上で破裂し何色もの輝きを大きく広げたと、思わず、流星が滝のように流れおちるさまに、参加者は一同に息をのんでいた。
そして翌朝、五時半からの朝勤に参り、宿坊に戻って朝食をとり、今回の参詣の目的である八時半からの大本堂行事に向かった。みなそこで感じることはそれぞれであったろうが、それを代表してシロさんが、「法要はすばらしく、パワフルで、私は穏やかな気持ちになりました。仏様や神様が私にタッチしたようなそんな雰囲気を感じました。そして非常にすばらしかった。」と取材に語った。そんなマレピトと同行したこと、感動的な一期一会の時間であった。



島根県妙法寺番神聖徒団
若槻 勉さん

出家しました！(沙弥になりました)アルゼンチン出身、台湾で13年仕事しています。

この御書に見られるように、以前に留学をしていた鎌倉と、また当時在籍していた叡山の名を除けば、京、園城寺、高野、天王寺の地名が出てきます。これ以外にも『破良観等御書』に「叡山・園城・高野・京中・田舎等処々に修行して自他宗の法門をならひしかども」とやばり同じ地名が出てきますので、これらの場所を訪ね歩いたことは間違いないと推察します。

園城寺については以前に少し触れましたが、叡山を離れた「寺門派」が本山と定めた天台のお寺で、現在の滋賀県は大津にあります。高野は言わずと知れた高野山金剛峯寺のことです。現在の和歌山県となり、また天王寺は現在の大阪府で、地名にもなっているお寺

「此等の宗々枝葉をばこまかに習はずとも、所詮肝要を知る身とならばやと思し故に随分にはしりまはり、十二・十六の年より三十二に至るまで二十余年の間、鎌倉・京・叡山・園城寺・高野・天王寺等の国々寺々あらら習回候し程に」
(妙法比丘尼御返事)
この行動範囲について考えると、まずわざわざ叡山まで出て、遊学期間中に東国方面に戻ることは考えられませぬ。当時は鎌倉こそ武家政治の中心として開かれてはいますが、畿内までの中間はまだ文化的とは言えず、地方武士や豪族たちの闊歩する山野でしかありません。同じく京都・大阪以西も、特に学ぶべき魅力のある地があったとは言えないでしょう。

また旅の目的が学問の研鑽ともなれば、当然ながら赴いた先である程度の日数をかけて滞在する必要がある。修得しなればならない条件を考えれば、畿内を中心とした程遠方までは出られなかつたと考えられるのが自然でしょう。そう思えば、やはりこの範囲を巡っていたことも、間違いないでしょう。

第四十八回 日蓮大聖人の歩まれた道

諸国への遊学
靈断院教学部長
小泉 輝泰

見て、信仰の素晴らしさを肌で感じるこ
とが出来ました。記念法話がなんととも素
晴らしいお話で、お題目を唱え、俱生神
月守を着帯している方が、命拾いで家
族に感謝し、幸せに過ごされたお話を聞き、
私もそうになりたいと思いました。
身延大会が終わり、帰路のバスの中で
ご一緒した方が「若槻さん、少し変わった
たね」と言われて、みんな笑顔になり
ました。少しは成長したのでしょうか。
身延大会が終わった夜は、お上人も私
たちも一安心し、バイキングの夕食と
入浴で疲れを取り、即就寝。三日目は
楽しい観光と食事会でした。最初は兵

ですので、
こちらもお
存じの方は
多いと思い
ます。
それらを
整理する
と、蓮長は
京都、滋賀、大阪、和歌山を巡ったこ
ととなり、その範囲はおおよそ近畿地方
に収まっています。

では蓮長はそれらの地をいかにして
巡り、そして何を学んでいったのでし
ょうか。
蓮長の遊学方法は、以前から様々
な説が提唱されてきました。しかし残念
ながら、大聖人はその過程について詳
細を述べられてはいませんので、い
ずれも推測の域を越しません。また資
料に乏しい中でのお話ではありますが、
著名な伝記のいくつかを紐解きなが
ら、次回より遊学の旅路をご紹介します

この御書に見られるように、以前に
留学をしていた鎌倉と、また当時在籍
していた叡山の名を除けば、京、園城寺、
高野、天王寺の地名が出てきます。こ
れ以外にも『破良観等御書』に「叡山・
園城・高野・京中・田舎等処々に修行
して自他宗の法門をならひしかども」
とやばり同じ地名が出てきますので、
これらの場所を訪ね歩いたことは間違
いないと推察します。



つながる通信員!

No. 5
長野県通信員
妙順寺聖徒団
古屋野順友

体力・元気が取り柄です！本堂
に全身ミラー四面設置でベリ
ンスクラスを行っています。ハ
ーマラソン・ジャズダンス・筋
力・冬はスピードスケート！また、
子どもたちに和太鼓とスケートを
教えています。その他、フルート、
ピアノ・龍笛などを気まぐれに演
奏します。(趣味が多すぎて変と
いわれませぬ笑)
子どもは中一、小三、年長のみ
んな男の子です。それぞれがかわ
い反抗期！
住職(父)は介護が必要ですが、
孫たちと一緒に過ごしています。
自身の子育てと仕事を両立させ
るため、お寺で託児所を行って
います。いつも赤ちゃんと幼児の元
気な声で賑やかです。また、老人
ホームとグループホーム宅老所、
児童養護施設の運営も行い、赤
ちゃんからお年寄りまで、幅広
い年代の方々に日々囲まれていま
す！

この行動範囲について考えると、ま
ずわざわざ叡山まで出て、遊学期間中
に東国方面に戻ることは考えられませ
ぬ。当時は鎌倉こそ武家政治の中心と
して開かれてはいますが、畿内までの
中間はまだ文化的とは言えず、地
方武士や豪族たちの闊歩する山野で
しかありません。同じく京都・大阪以西も、
特に学ぶべき魅力のある地があったと
は言えないでしょう。

この御書に見られるように、以前に
留学をしていた鎌倉と、また当時在籍
していた叡山の名を除けば、京、園城寺、
高野、天王寺の地名が出てきます。こ
れ以外にも『破良観等御書』に「叡山・
園城・高野・京中・田舎等処々に修行
して自他宗の法門をならひしかども」
とやばり同じ地名が出てきますので、
これらの場所を訪ね歩いたことは間違
いないと推察します。

庫里加東市の朝光寺にお参り。国宝の
本堂と重要文化財の鐘楼を見学しまし
た。次は世界遺産で国宝の姫路城。六
階の天守まで登り感動。平日でも八千
人の観光客が訪れるらしく、長蛇の列
で疲れましたが、とても楽しく良い思
い出となりました。最後は松江で豪華
な食事会をして、妙法寺に無事に到着
しました。
大変有意義で感動の三日間となりま
した。来年は多くの方をお誘いしたい
と思っております。新聞上人、田平上人、
ご一緒した聖徒の皆さんに感謝してお
ります。ありがとうございました。

よろこび法話

お題目の功德は、大きく・やさしく・強いものです。



日蓮宗霊断師会 総務部 部員
東京都 感通寺聖徒団副団長
新聞 正興

せなくてはならない。その時に信じていることのできる人物は、死ぬ覚悟があると口で言う人ではなく生きる覚悟のある人物でなければならぬ。主人公はこのことで信頼を得て、晴れて宇宙飛行士となるのです。私はこの「多分『こりや死ぬな』って瞬間がきたとしてもギリギリまで生きたいって、そう思っていたんです。」この言葉が好きなのです。これは一つの話ですが、「生きることへの覚悟」が大切なだと教えてくれています。

お釈迦様は人の苦しみを説かれました。それは、「生・老・病・死」。人は生きながらに、老いる苦しみ・病気になる苦しみ・死ぬ苦しみの中にあります。しかしながら、一番の苦しみは、苦しみを抱えながらも生きていくことの困難さ、大変です。その中に私たちは、喜怒哀楽、一喜一憂しながら生活をしているのです。

大切な人との別れ、病気で苦しみながら生きていく大変さ、大切な人が苦しんでいるのを見なければいけないのがゆき。これは、私が述べるまでもなく、お一人お一人が経験された、または今、されている方もいらっしゃるでしょう。どんなに理屈が合っても、理解し納得することのできないこともあります。

私の好きな言葉があります。それは「宇宙兄弟」という兄弟で宇宙飛行士を目指して月に行くというお話の中にあります。宇宙飛行士を目指す主人公は、合格できる最終面接の際に、面接官から個別で一つだけ質問をぶつけられます。「死ぬ覚悟ってある？」

主人公は「すみません、とりつくりながら心証を害さないように、愛想笑いで答えます。『もちろん、ありますとも』と答えますが、『すみません、嘘つきました。本当は死ぬ覚悟できてないです。多分『こりや死ぬな』って瞬間がきたとしてもギリギリまで生きたいって、そう思っています。』

その質問は、面接官自身が以前問われた質問だったのです。一つのミスで命の保証のない宇宙では、仲間に自分の背中を任



私が霊断師となって、はじめてご相談にいられた方は、六十三歳の洋子さんという近所にお住まいの方。病名は「末期ガン」。とても品のよい方で、病気のわりにはとても明るい方。九識霊断法では、一生懸命に俱生神の加護におすがりすることが大切であり、病氣も一時、快方に向かうというものでした。

洋子さんはそれを聞いて喜び、その日からお守を肌身離さずに着帯され、家族にも着けるように、袋を持って行かれました。

その日から朝晩はご祈願を行っていましたが一週間後、病院に入ってから、抗がん剤の副作用から歩くこともままならないようになりまして。しかし、秋のお彼岸には、自分で歩いて本堂に参詣され、古くなたお守を御宝前に納め、「仏様・日蓮様・お守様のおかげですっかり元氣になりました。いつも拝んでくれて有難う。本当に信じられないくらい歩けるようになって、すがすがしいわ」と、病氣になっても負けない心と、「ありがとう」を欠かさない姿に、感動したことを覚えていいます。

その年の十一月一日より私は日蓮宗大荒行堂に初行として入行しました。中では洋子さんのことが気になりながらも、毎日過ぎていき、二月十日、成満の日が洋子さんのご命日となりま

した。私は正直、お経・お題目が自信をもつてお唱えすることが出来なくなりまして。大聖人の教えは「法華経の行者の祈りの叶わぬことあるべからず」そう書いてあるじゃないか。洋子さんは毎日、一生懸命、家でも病院でも肌身離さず、お守を握りしめながら、お題目をお唱えしながら、たかっていたのに。

私にとつては、お題目をお唱えしてもしなくても結果は一緒だったのじゃないか。どうして、唱えなければならなかったのだろう。どこに救いがあるのかなんて分からない。本当に僧侶としては情けないことばかり考えていました。

一か月後、ご家族が来られた時に、本当に申し訳ないのと情けない気持ちでいっぱいでした。その時、息子さんから手を力いっぱい握られ、「ありがとう、ありがとう。お上人のおかげで救われた」。私はビックリして聞き直しました。「どうしてですか。お母様は亡くなられたのですよ」

「母の唯一の楽しみはお題目をお唱えしているときだったのです。家族も、病氣をしながら、毎日のように決まった時間に手を合わせて、仏壇にお題目を一生懸命お唱えする姿にたまらない想いで見ていました。その姿を見て、それまでは他人事のようにだった父が、何をするのでも率先して、母の介助をするようになり、夫婦本当に仲良くなりました。これまで家にずっといた弟は、働くようになりました。母は、実は自分の病気の事をお願いしていたわけではなかったのです。自分達、家族のことを一心にお祈りしていました。母は病床で、私に、やっとお願いが叶ったよ。私が死んだら、お寺さんに行つて、お願い事が叶って救われました。ありがとうとつて伝えてね。そして、苦しまずに亡くなりました。本当にありがとうとつて下さいませ。」

その言葉を聞いて、私自身が救われました。お題目の功德は、私が考えているよりも遙かに大きく・やさしく・強いものだったのです。

大聖人のお言葉の中に、「法華経を持ち奉るより外に遊樂はなし。現世安穩・後生善処(ごしようぜんしょ)とは是なり。ただ世間の留難来るとも、とりあへ給ふべからず。賢人聖人も此の事はのがれず。ただ女房と酒うちのみて、南無妙法蓮華経となへ給へ。苦をば苦とさとり、樂をば樂とひらき、苦樂ともに思ひ合はせて、南無妙法蓮華経とうちとな(唱)へる(居)させ給へ。これあに自



全国のよろこびちゃん vol.18

千葉県 千葉市 正蓮寺聖徒団

平成26年4月14日生まれ
新山 由奈ちゃん

お寺にきたよ！
ひいおばあちゃんの四十九日！
いっしょにお経をあげました！
七日毎のお経も皆勤賞だよ！

全国のよろこびちゃん vol.17

岩手県遠野市 法華寺聖徒団

平成22年9月4日生まれ
阿部 千尋ちゃん

これからも仏様に護られて、元氣に
すくすく育ちながら、全国の沢山の
よろこびちゃんとお友達になれる
ように！！

全国のよろこびちゃんを募集しています！

砥森山 法華寺

生きて救われの道場

住職 阿部 是秀
副住職 阿部 是眞

〒028-0304
岩手県遠野市宮守町下宮守31-69-1
電話 0198-67-3166
FAX 0198-67-2227

安房乃國隨一 三十番神祈願道場

顕本寺聖徒団
団長 小泉 輝泰

「1人で悩まず、まずは相談」
〒295-0002
千葉県南房総市千倉町川合690-1
TEL 0470-44-1062
FAX 0470-44-1524

信用第一の専門店

◇格調高い関東風仏具◇

宗務院指定

仏壇・仏具 仏像彫刻
内陣莊嚴具 設計製作

(株)中野三佛屋

東京都台東区寿2丁目7の12
電話 03 (3843) 6951
FAX 03 (3843) 6973
定休日 日曜日

利生寺

日蓮宗霊断師会会長
利生寺聖徒団副団長
末吉 観道
副団長
末吉 正道

〒930-0055 富山県富山市梅沢町3-16-10
TEL 076-421-8776 FAX 076-421-8250

正蓮寺

日蓮宗霊断師会 副会長
日蓮宗宗会議員
正蓮寺聖徒団 団長
大塩 孝信

〒290-0151 千葉県市原市瀬又134-1
TEL 0436-52-0207
FAX 0436-52-2288